

知り合う

子どものころ、親やほかの人に散らかしたものを隠したことはありますか？ たとえば、洗濯物をベッドの下に押し込んだり、引き出しやクローゼットに全部放り込んだりしたことはありませんか？ 誰かがそこを見ようとしたときはどんな気持ちになりましたか？ ようやく片づいたときはどんな気持ちになりましたか？

聖句　ヨハネの手紙一 2:3-11（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

3 私たちは、神の戒めを守るなら、それによって神を知っていることが分かります。4「神を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であり、その人の内に真理はありません。5 しかし、神の言葉を守るなら、その人の内に神の愛が真に全うされています。これによって、私たちが神の内にいることが分かります。6 神の内にとどまっていると言う人は、イエスが歩まれたように、自らも歩まなければなりません。7 愛する人たち、私があなたがたに書き送るのは、新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い戒めです。その古い戒めとは、あなたがたがかつて聞いた言葉です。8 しかし、私は、あなたがたにこれを新しい戒めとしてもう一度書き送ります。それは、イエスにとっても、あなたがたにとっても真実です。闇が過ぎ去り、すでにまことの光が輝いているからです。9 光の中にいると言いながら、きょうだいを憎む者は、今なお闇の中にいます。10 きょうだいを愛する者は光の中にとどまり、その人にはつまずきがありません。11 しかし、きょうだいを憎む者は闇の中にいて、闇の中を歩み、自分がどこに行くのかを知りません。闇がその人の目を見えなくしたからです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか?

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 従順のテスト（3〜5節）：ヨハネは、私たちが『神を知っている』ことを知るための第一の方法として何を示していますか（3節）？ 逆に、神を知っていると主張しながら、その戒めを守らない人の状態はどう描かれていますか（4節）？

2. 模倣のテスト（6節）：ヨハネは、『神の内にとどまっている』と言う者は、『イエスが歩まれたように、自らも歩まなければなりません。』と述べています（6節）。これに基づくと、イエスの弟子の歩みとはどのようなものなのでしょうか。そして、なぜそれが彼のうちにとどまり続けるために不可欠なのでしょうか？

3. 古い戒めと新しい戒め（7〜8節）：ヨハネは、イエスが歩まれたように歩むという戒めを、7節では『古い戒め』、8節では『新しい戒め』と呼んでいます。この戒めはどのような意味で古く、またどのような意味で新しいのでしょうか？

4. 愛のテスト（9〜11節）：この箇所は、兄弟姉妹を愛する者と憎む者を対比して締めくくられています。両者の間には、霊的な状態（光と闇）と、実際的な結果（つまずきの原因となることと、盲目になること）にどのような根本的な違いがあるのでしょうか？

分かち合い

話し合い　その1

武牧師は、『イエスの仮装』をしていても、内側では不都合な信者に対して憎しみや無関心を表すことを警告しました。ヨハネは、光と闇の対比をどのように用いて、クリスチャン同士の接し方がその人の真の霊的状態を明らかにすることを示しているのでしょうか？

話し合い　その2

武牧師は、私たちにこのように問いかけました。『自分の人生の目標は何か？ 仕事に行く目的は何か？ 教会に来る目的は何か？ それは “神が望まれる自分になること” なのか、それとも別のものなのか？ あなたならどう答えますか？』

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。

レッスンPDF: t-b-c.us/sg5025jp

学びの聖句: t-b-c.us/sg5025j